

直線上の展望台



□コンセプト

ここ「海軍壕公園」は、首里王朝時代に中国や薩摩からの船の入港を知らせるための「火番原（ヒーバンムイ）」があった場所であり、かつて水平線の彼方まで見渡せたであろう沖縄の歴史における貿易と発展の要所といえます。しかし、すでにその機能はこの地に残っておらず、既存の展望所のアイレベルから望む景色は、人口増加や建物の高層化、周辺木々の成長などの「時の流れに阻まれた風景」に感じ、未来ではさらに風景が狭まっていることが予想できます。

当時のこの地より望み見た景色とどれほどの違いがあるのでしょうか。

「現在の時の流れに阻まれた風景」ではなく、「少し先の時の流れを許容しつつ変わりゆく美しい風景」を楽しむ展望台を提案します。

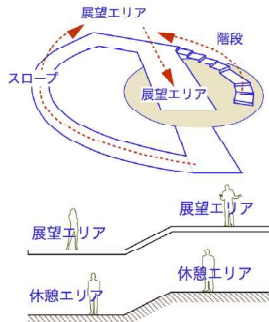
□プログラム

「直線と円形による構成」

街並みが望める2方向に対して高台より高い位置に展望場所をそれぞれ設定し、その2つを直線的に繋げます。高台から展望場所へは円弧型のスロープと階段で回り込みながら登っていく構成としました。

「木々の高さを超えた展望場所と屋根を利用した休憩場所」
バリアフリーと周辺の木々の高さに配慮しつつ敷地の高低差を利用しながら必要なだけ展望する位置を高くし、その軒下を休憩スペースとして有効に利用します。

そうすることで屋上では直線的な風景の抜けが強調された開放的な展望場所となり、軒下では円形により包まれた落ち着きのある空間として様々なシーンに対応できます。

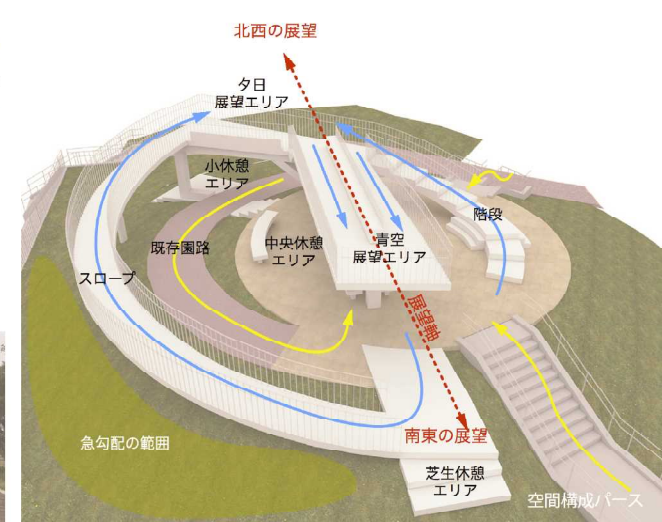


□配置・動線計画

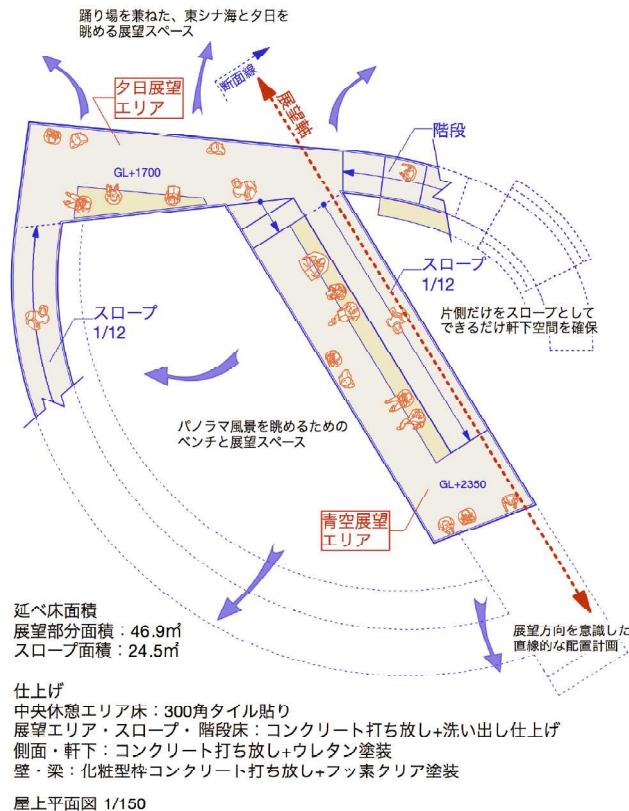
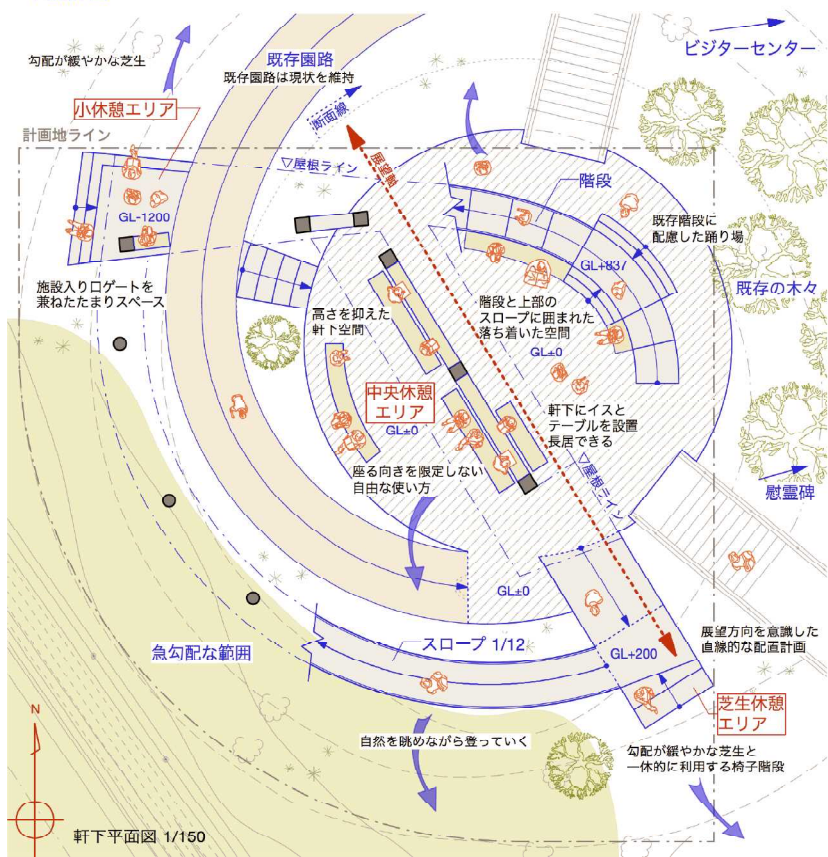
既存の園路スロープはそのまま残し、その少し外側を回り込む新たなスロープと、中央休憩スペースを囲むような階段の2つの動線により夕日展望エリアへ登っていきます。夕日展望エリアから青空展望エリアへは、2方向の展望方向を軸としたスロープとフラットな床によって直線的に繋がれ、行き帰りの歩行中も美しい街並みを意識できるような計画としました。

□高さ計画

小休憩エリアのFLは高台のGLから1.2mほど(※実測寸法)下がっており、新たに設置したスロープの登りを含めて休憩場所として十分な高さを確保しています。また、中央休憩エリアについては必要最低限の高さとする事で雨や高台による風の影響に配慮しつつ長居することを想定した造りとなっています。小休憩エリアと芝生休憩エリアの現況は比較的緩やかな勾配であり、芝生を含めた一体的な利用が可能となっています。



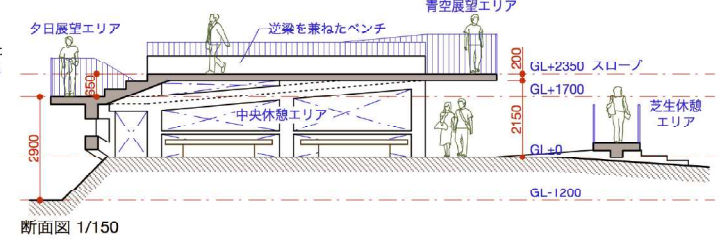
□平面計画



・ Sloop と階段で回りこみながら登ることで回遊性と中心性が生まれ、その中心を直線的に分断するように2つの展望エリアを上部で繋げています。そうすることで軒下は包まれた落ち着きのある空間、屋上は分かりやすく開放性のある空間となるよう計画しました。

□構造計画

青空展望エリアの中心軸に400角のRC柱をスパン4m以内に配置し、安全な範囲でスラブを張り出し、フラットなスラブ部分の梁は逆梁を兼ねたベンチとすることでスッキリとした軒下空間とします。また夕日展望エリアは、RCの垂直柱と斜め柱を用いて長いスパンに対応することで、軒下の空間に影響のない高さを確保します。



・ 屋上の夕日展望エリアの下をくぐるゲートのような施設への入り口付近に利用者のたまりとなるスペースを設け、高低差のあるこの土地にとっての小休憩できる場所としました。この付近は比較的勾配が緩やかな上、展望も楽しめるので芝生を含めた一体的で自由な休憩を想定して計画しました。



・ 軒下を利用した中央休憩エリアに対して、高台全体を円で囲むように階段や Sloop、椅子を配置することで広いたまりとなる中心性のある空間を構成しました。また青空展望エリアとなる屋根を支える柱間にカウンターを設けたり、向きを限定しない椅子にするなど様々な用途や多人数に対応した造りとしています。



・ 雨や高台による風の影響に配慮して高さを抑えた屋根が、軒下に長居しやすい空間を創出しています。ここからも展望は望めますが、高台下の駐車場の木や南西側の森、ボリュームのある集合住宅に囲まれた印象の風景となるため、屋上の展望エリアでは開放感を、軒下の休憩エリアでは落ち着きのある空間として高低による性質の違いを演出しています。